

令和7年度 「英語コミュニケーションⅠ（１）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
必履修	2	通年	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)			教材等(学習書等)	
All Aboard! English Communication Ⅰ(東京書籍)			学習書(NHK 出版)	
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
16(水2, 木2)	8	前・後期 各1回	前期3回 後期3回	

○ 「英語コミュニケーションⅠ(1)」の学習目標

日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを把握し、情報や考えなどを理由とともに話したり、伝えたりすることができる。

○ 学習内容の概要

この講座では、スクーリングやレポートをとおして、英語による指示や教科書に出てくる英文・対話文を聞いてその内容を理解することができるようにします。また、英語を「聞く」、「読む」、「やりとりする」、「発表する」、「書く」活動をとおして情報や内容についての理解を深め、実際の場面で活用できるようにします。

○ 英語科からのメッセージ…(学習の態度・心構え)

基礎的な内容をじっくりと繰り返し学習することで英語でのコミュニケーション活動ができるようにしたいと思います。言葉を学ぶ楽しさを実感し、異文化理解を行いながら自らの英語力を伸ばしていきましょう。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	会話表現、動詞等	基礎的な動詞を使って表現できる	第1回目
2	5	25	日	会話表現、動詞等	基礎的な動詞を使って表現できる	第1回目
3	6	8	日	会話表現、動詞等	基礎的な動詞を使って表現できる	第1回目
4	6	11	水	過去を表す文	過去形の動詞を使って適切に活用できる	第2回目
5	7	6	日	過去を表す文	過去形の動詞を使って適切に活用できる	第2回目
6	7	20	日	進行形	進行形について理解し適切に活用できる	第3回目
7	7	27	日	進行形	過去進行形を使って適切に活用できる	第3回目
8	10	12	日	助動詞	助動詞の働きを理解して適切に活用できる	第4回目
9	10	19	日	助動詞	助動詞の働きを理解して適切に活用できる	第4回目
10	10	29	水	不定詞	不定詞の働きを理解して適切に活用できる	第5回目
11	11	9	日	不定詞	不定詞の働きを理解して適切に活用できる	第5回目
12	11	30	日	不定詞	不定詞の働きを理解して適切に活用できる	第5回目
13	12	14	日	動名詞	動名詞の働きを理解して適切に活用できる	第6回目
14	12	21	日	動名詞、読解	動名詞の働きを理解して大意把握ができる	第6回目

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	28	水
締切日②	2	6	25	水
締切日③	3	7	23	水
締切日④	4	10	29	水
締切日⑤	5	11	26	水
締切日⑥	6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポートの第1回～第3回、教科書、学習書をよく復習しておいてください。
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポートの第4回～第6回、教科書、学習書をよく復習しておいてください。

○ レポートについて

- ・計画的に進め、添削指導後の復習をしっかりとやりましょう。
- ・レポートは、教科書や学習書を参考にすることで作成できます。
- ・自分で分からないところは、担当者に質問して解決するように心掛けましょう。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を理解できる。
思考・判断・表現	場面・目的・状況等に応じ幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりできる。
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習を通じ、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

・補足 以下の日程で木曜日に「基礎力養成講座」を開講します

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	24	木	Be 動詞	肯定文・否定文・疑問文を作ることができる	第1回目
2	5	8	木	一般動詞	肯定文・否定文・疑問文を作ることができる	第1回目

令和7年度 「英語コミュニケーションⅠ（２）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
必履修	2	通年	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)			教材等(学習書等)	
All Aboard! English Communication I (東京書籍)			学習書(NHK 出版)	
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
14(水2)	8	前・後期 各1回	前期3回 後期3回	

○ 「英語コミュニケーションⅠ（２）」の学習目標

日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを把握し、情報や考えなどを理由とともに話したり、伝えたりすることができる。

○ 学習内容の概要

この講座では、スクーリングやレポートをとおして、英語による指示や教科書に出てくる英文・対話文を聞いてその内容を理解することができるようにします。また、英語を「聞く」、「読む」、「やりとりする」、「発表する」、「書く」活動をとおして情報や内容についての理解を深め、実際の場面で活用できるようにします。

○ 英語科からのメッセージ…(学習の態度・心構え)

基礎的な内容をじっくりと繰り返し学習することで英語でのコミュニケーション活動ができるようにしたいと思います。言葉を学ぶ楽しさを実感し、異文化理解を行いながら自らの英語力を伸ばしていきましょう。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	受け身	受け身を理解して適切に活用できる	第1回目
2	5	11	日	受け身	受け身を理解して適切に活用できる	第1回目
3	5	25	日	受け身	受け身を理解して適切に活用できる	第1回目
4	6	8	日	比較表現	比較表現を理解して表現できる	第2回目
5	6	11	水	比較表現	比較表現を理解して表現できる	第2回目
6	6	22	日	現在完了形	3用法を理解して適切に活用できる	第3回目
7	8	24	日	現在完了形	3用法を理解して適切に活用できる	第3回目
8	10	19	日	分詞の後置修飾	分詞の働きを理解して適切に活用できる	第4回目
9	10	26	日	分詞の後置修飾	分詞の働きを理解して適切に活用できる	第4回目
10	10	29	水	関係代名詞	関係代名詞の働きを理解する	第5回目
11	11	16	日	関係代名詞	関係代名詞の働きを理解する	第5回目
12	11	30	日	関係代名詞	関係代名詞の働きを理解する	第5回目
13	12	21	日	読解	大意把握をすることができる	第6回目
14	1	11	日	読解	大意把握をすることができる	第6回目

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	28	水
締切日②	2	6	25	水
締切日③	3	7	23	水
締切日④	4	10	29	水
締切日⑤	5	11	26	水
締切日⑥	6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポートの第1回～第3回、教科書、学習書をよく復習しておいてください。
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポートの第4回～第6回、教科書、学習書をよく復習しておいてください。

○ レポートについて

- ・計画的に進め、添削指導後の復習をしっかりとやりましょう。
- ・レポートは、教科書や学習書を参考にすることで作成できます。
- ・自分で分からないところは、担当者に質問して解決するように心掛けましょう。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を理解できる。
思考・判断・表現	場面・目的・状況等に応じ幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりできる。
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習を通じ、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

令和7年度 「英語コミュニケーションⅡ (i)」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択科目	2	通年	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)			教材等(学習書等)	
All Aboard! English Communication II (東京書籍)			学習書(NHK 出版)	
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
15(水3)	8	前・後期 各1回	前期3回 後期3回	

○ 「英語コミュニケーションⅡ (i)」の学習目標

基礎的な言語学習をさらに発展させ、幅広い話題について、聞いたり読んだりしたことを把握し、情報や考えなどを理由とともに話したり、伝えたりすることができる。

○ 学習内容の概要

本講座では、英語コミュニケーションⅠで学習した内容に新たな学習項目を加え、積極的に言語活動を行い、自らコミュニケーション活動ができるようにします。また、英語を「聞く」、「読む」、「やりとりする」、「発表する」、「書く」活動をとおして情報や内容についての理解を深め、実際の場面で活用できるようにします。

○ 英語科からのメッセージ…(学習の態度・心構え)

言葉を学ぶ楽しさを実感し、異文化理解を行いながら自らの英語力を伸ばしていきましょう。英語を学ぶしつかりとした意欲をもって取り組んでください。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	関係代名詞(what)	関係代名詞(what)の用法を理解する	第1回目
2	5	25	日	関係代名詞(what)	関係代名詞(what)を使って表現できる	第1回目
3	6	8	日	関係代名詞(what)	関係代名詞(what)を使って表現できる	第1回目
4	6	25	水	比較表現	比較表現を理解して表現できる	第2回目
5	7	6	日	比較表現	比較表現を理解して表現できる	第2回目
6	7	27	日	it の用法	it の用法を理解して適切に活用できる	第3回目
7	8	24	日	it の用法	it の用法を理解して適切に活用できる	第3回目
8	10	12	日	間接疑問文	間接疑問文を理解して適切に活用できる	第4回目
9	10	15	水	間接疑問文	間接疑問文を理解して適切に活用できる	第4回目
10	10	26	日	To不定詞を含む表現	To不定詞を含む表現を理解して表現できる	第5回目
11	11	16	日	To不定詞を含む表現	To不定詞を含む表現を理解して表現できる	第5回目
12	11	30	日	To不定詞を含む表現	To不定詞を含む表現を理解して表現できる	第5回目
13	12	3	水	To不定詞を含む表現	To不定詞を含む表現を理解して表現できる	第5回目
14	12	14	日	読解	大意把握をすることができる	第6回目
15	1	18	日	読解	大意把握をすることができる	第6回目

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	28	水
締切日②	2	6	25	水
締切日③	3	7	23	水
締切日④	4	10	29	水
締切日⑤	5	11	26	水
締切日⑥	6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポートの第1回～第3回、教科書、学習書をよく復習しておいてください。
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポートの第4回～第6回、教科書、学習書をよく復習しておいてください。

○ レポートについて

- ・計画的に進め、添削指導後の復習をしっかりとやりましょう。
- ・レポートは、教科書や学習書を参考にすることで作成できます。
- ・自分で分からないところは、担当者に質問して解決するように心掛けましょう。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を理解できる。
思考・判断・表現	場面・目的・状況等に応じ幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりできる。
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習を通じ、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

令和7年度 「英語コミュニケーションⅡ (ii)」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択科目	2	通年	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)			教材等(学習書等)	
All Aboard! English Communication II (東京書籍)			学習書(NHK 出版)	
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
15(水3)	8	前・後期 各1回	前期3回 後期3回	

○ 「英語コミュニケーションⅡ (ii)」の学習目標

基礎的な言語学習をさらに発展させ、幅広い話題について、聞いたり読んだりしたことを把握し、情報や考えなどを理由とともに話したり、伝えたりすることができる。

○ 学習内容の概要

本講座では、英語コミュニケーションⅠで学習した内容に新たな学習項目を加え、積極的に言語活動を行い、自らコミュニケーション活動ができるようにします。また、英語を「聞く」、「読む」、「やりとりする」、「発表する」、「書く」活動をとおして情報や内容についての理解を深め、実際の場面で活用できるようにします。

○ 英語科からのメッセージ…(学習の態度・心構え)

言葉を学ぶ楽しさを実感し、異文化理解を行いながら自らの英語力を伸ばしていきましょう。英語を学ぶしつかりとした意欲をもって取り組んでください。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	20	日	if 節(目的語)	if 節を理解して表現できる	第1回目
2	5	11	日	if 節(目的語)	if 節を理解して表現できる	第1回目
3	6	22	日	関係副詞	関係副詞の働きを理解する	第1回目
4	6	25	水	関係副詞	関係副詞の働きを理解する	第2回目
5	7	6	日	関係副詞	関係副詞の働きを理解する	第2回目
6	7	20	日	知覚動詞	知覚動詞を理解して適切に活用できる	第3回目
7	7	27	日	知覚動詞	知覚動詞を理解して適切に活用できる	第3回目
8	10	12	日	使役動詞	使役動詞を理解して適切に活用できる	第4回目
9	10	15	水	使役動詞	使役動詞を理解して適切に活用できる	第4回目
10	10	19	日	使役動詞	使役動詞を理解して適切に活用できる	第4回目
11	10	26	日	分詞構文	分詞構文の働きを理解する	第5回目
12	11	30	日	分詞構文	分詞構文の働きを理解する	第5回目
13	12	3	水	分詞構文	分詞構文の働きを理解する	第5回目
14	12	14	日	読解	大意把握をすることができる	第6回目
15	12	21	日	読解	大意把握をすることができる	第6回目

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	28	水
締切日②	2	6	25	水
締切日③	3	7	23	水
締切日④	4	10	29	水
締切日⑤	5	11	26	水
締切日⑥	6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポートの第1回～第3回、教科書、学習書をよく復習しておいてください。
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポートの第4回～第6回、教科書、学習書をよく復習しておいてください。

○ レポートについて

- ・計画的に進め、添削指導後の復習をしっかりとやりましょう。
- ・レポートは、教科書や学習書を参考にすることで作成できます。
- ・自分で分からないところは、担当者に質問して解決するように心掛けましょう。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を理解できる。
思考・判断・表現	場面・目的・状況等に応じ幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりできる。
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習を通じ、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。

令和7年度 「論理・表現Ⅰ」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必履修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択科目	2	通年	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)			教材等(学習書等)	
NEW FAVORITE English Logic and Expression I (東京書籍)			学習書(NHK 出版)	
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
14(水2)	8	前・後期 各1回	前期3回 後期3回	

○ 「論理・表現Ⅰ」の学習目標

日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理の展開や表現の方法を工夫して話したり書いたりすることができる。

○ 学習内容の概要

この講座では、ペアワークやグループワークなどの言語活動をとおして、他者の英語を理解するとともに、自分自身の考えなどを英語で表現することを学びます。「やり取りする」、「発表する」、「書く」活動を中心とした発信する力を伸ばすことを目標に活動します。

○ 英語科からのメッセージ…(学習の態度・心構え)

本講座は英語によるコミュニケーション活動を中心に、やり取りや人前での発表の仕方などを学びます。英語での言語活動に興味関心の高い人はトライしてみてください。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	5	11	日	食事での会話	食事を褒めたり勧めたり断ったりできる	第1回目
2	5	25	日	道に迷う場面での会話	道順を聞いたり説明したりできる	第1回目
3	6	22	日	人物紹介	身近な人を紹介することができる	第1回目
4	7	6	日	体調に関する会話	体調を尋ねたりアドバイスをしたりできる	第2回目
5	7	20	日	買い物での会話	希望を伝えたり相づちを打ったりできる	第2回目
6	7	23	水	イベントに誘う	イベントに誘ったり断ったりできる	第3回目
7	7	27	日	お気に入りを紹介	本のあらすじを要約したり批評を述べたりすることができる	第3回目
8	10	12	日	待ち合わせでの会話 ディスカッションの会話	遅れたのを謝ったり許したりできる 共感したり解決策を提案したりできる	第4回目
9	10	26	日	英字新聞に投稿	要望や主張を理由と共に述べるができる	第4回目
10	11	12	水	ディベート	理由をあげたり引用したりして反駁することができる	第5回目
11	11	16	日	スポーツなど紹介する	ルールなどを順序立てて説明することができる	第5回目
12	12	14	日	日本をPRする	文化や習慣などを説明することができる	第6回目
13	12	21	日	物事の両面を伝える	利点や欠点を述べるができる	第6回目
14	1	11	日	まとめ・復習	自分の主張について理由を要約してまとめることができる	第4～6回目

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	28	水
締切日②	2	6	25	水
締切日③	3	7	23	水
締切日④	4	10	29	水
締切日⑤	5	11	26	水
締切日⑥	6	12	24	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬頃～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポートの第1回～第3回、教科書、学習書をよく復習しておいてください。
後期	11月下旬頃～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポートの第4回～第6回、教科書、学習書をよく復習しておいてください。

○ レポートについて

- ・計画的に進め、添削指導後の復習をしっかりとやりましょう。
- ・自分で分からないところは、担当者に質問して解決するように心掛けましょう。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を理解できる。
思考・判断・表現	場面・目的・状況等に応じ幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確にやりとりしたり発表したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	外国語学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

3つの観点について、観点ごとに3段階(A・B・C)で評価を行い、学習を支援します。

(b) 評定

1年間の評定は、評価方法に基づいて総合的に判断して、5段階で評価します。